



弓の名人と 油売り

プレム・ラワット講演より

弓の名人と油売り

プレム・ラワット講演より



昔あるところに、弓の名人がいました。その名人は、一の矢を的に命中させると、二の矢で一の矢を裂いてしまうほどの腕前でした。その技を見せて村から村へと渡り歩き、集まってきた見物人は、見たこともないその技に拍手喝采を送っていました。

ある日名人は、とある小さな村にやって来ました。いつものように弓を取り出し、矢を的に命中させると、村人は「いいぞ、いいぞ」と喝采を送ります。ところが見物人の拍手が静まると、後の方から「そんなこと、練習すれば誰でもできるさ」と大きな声がします。

その声が名人の耳に届くと、気になって仕方ありません。でも名人は続けます。二本目の矢をつがえ、それを射ると最初の矢に命中、裂いてしまいました。見物人は再び「すごい、すごい、お見事」と驚嘆の声を上げます。するとまた同じ声で「それくらい、練習すれば誰でもできるさ」と野次が飛びます。

この見世物が終わるころには、名人はずいぶん苛立っていました。彼の方は名人芸を披露しているのに、くだんの男は「練習すれば誰でもできるさ」と何度も野次を飛ばすのですから当然です。ついに名人は見物人の後の方まで行き、その声の主を見つけます。男は竹の天秤棒をかつぎ、前にも後ろにも油壺をぶら下げて油を売っているのです。

名人は油売りに向かって「練習すれば誰でもできるなどとよくも言えたものだ。お前なん

ぞ、たかが油売りだろう。俺様ときたら、この腕前見たさに見物人がはるばる遠くからやって来るほどなのだ」と迫ります。

油売りは名人の方を見て「あゝ、練習すれば誰でもできるようになりますよ。では、私がひとつお見せしましょう」と言います。

すると、油売りは一本の瓶を取り出し、その口に穴あきの硬貨を置きました。そして、その硬貨の小さな穴を通して、壺の油を、何と一滴もこぼさずに瓶に注ぎ込みました。男は名人に向き直ると「今度はあなたやってくださいよ」と言います。

もはや名人にはなすすべもありません。まさに熟練、つまり、日々練習を重ねることが何をもちたらずかを思い知らされたのです。

平和はシンプル

ここで皆さんに聞いてみたいのです。「あなたは何に熟練していますか」。考えてみてください。「あなたは日々、何を練習していますか」。こう尋ねるのは、どんなことであれ、人は日々繰り返すことが上手になると思うからです。

さて、ここに平和というテーマがあります。時として私たちは、そのテーマがどれほどシンプルなものなのかを忘れていきます。しかし、もし皆さんが、本当のことを、ほんとうに本当のことを知りたいと思っているなら、答えはシンプルです。「あなたが探している平和は、自分自身の中にある」ということです。

探しているものはあなたの中にあると言うと、それはどういう意味なのか説明して欲しい人もいるでしょう。でもできないのです。なぜかと言うと、あなたが探しているものは、私があるの中に置いた訳ではないからです。探しているものは、ずっとあなたの中にあるのです。そして、私たち誰もがその平和を知りたいという思いに駆られ探してきました。しかし人は、評価できないものを評価しようとしたり、定義できないものを定義しようとしたり、何の解決ももたらさない解決策を考え出すのに、あまりにも多くの時間を費やしながら、見つけることができないのです。

このように言う人もいます。「もし本当の平和が欲しいのであれば、すべてを捨てて出家する必要がある」と。でもどうやってすべてを捨て去ることができるでしょう。言うのは簡単です。しかし、何を捨てるというのでしょうか。

「すべて」を捨てたと言われている仏陀の話があります。スジャータは仏陀に向かって「何をしていますのですか」と聞



きました。仏陀は「所有への執着から自由になろうとしているのだ。もう何も欲しくはない」と答えます。するとスジャータは仏陀を指差して「これもお捨てになるつもりですか。まだ肉体はここにありますから、すべてを捨てていないのではありませんか」と言います。そのように話は続いていきます。そうして仏陀は何かを悟りました。

また、こんなこともよく言われます。兵士ほど平和を望んでいる人はいないと。誰よりも戦争に行きたくないのが兵士です。それが義務だから行くのです。でも、兵士と奥さんが別れを惜んでいる時に、突然「戦闘停止。和平成立につき帰還せよ」という命令が来たとしたら、きっと二人は飛び上がらんばかりに喜ぶことでしょう。

私たちは、戦争がどうして始まるのかほんとうには知らないのに、平和のための解答を考えだそうとします。もちろん、いつも戦争が起きるそれなりの理由はありました。そして歴史家たちは、それぞれの戦争についてなぜ始まったのかを書き残しています。でも、彼らがどんな理由を書いたとしても、その中に、人間の心が満たされていなかったからだという言葉を見つけることはできません。

心が満たされるとは、いったいどんなことでしょう。それは、毎日生きていることに感謝の気持ちを感じられ、このいのちに感謝できることではないでしょうか。

毎日 何を練習していますか。

優しい気持ちを持つことですか。

そうであれば、優しくなることが上手になります。

恋いこがれ、川は流れる

私たちが、いのちの貴重さを知らなければ、戦争や人を殺すことは都合のよい解決手段になってしまいます。一人の人間が他人のいのちを奪ってしまうことさえ何でもないことになります。「俺には、お前のいのちより金の方が大事なんだ」と言いきなりズドンと撃つ。どうしてそんなことになってしまうかと言えば、自分自身に価値を見出すことができないからです。だから他人に対しても価値を認めることができないのです。「お前なんか何の価値もない」となってしまいます。

でもちょっと考えてみてください。人間には最高に価値ある贈り物、いのちという贈り物が与えられているのではないですか。「では、それは誰からの贈り物ですか」と聞く人がいるかもしれません。でもそれが気になりますか。その贈り物を受け入れていないなら、誰からの贈り物かという質問に何か意味があるのでしょうか。贈り物を受け入れること、それがまず一番になされなければなりません。

皆さんは朝、目覚めたときに「この呼吸をありがとう。今日、この一日をありがとう」と言いますか。それとも「やれやれ、また今日もいろいろやらなくちゃ」と言うことになりますか。

あなたは毎日何を習慣とし何を練習しているのでしょうか。優しい気持ちを持つことですか。そうであれば優しくなることが上手になります。それとも、不平不満を言うことですか。であるなら、どれほど素早く不満をぶつけられるようになりましたか。

心の奥にある平和を感じる練習をしてください。そうすれば、それが上手になります。やってみれば、私が話していることがわかります。

人々は答えを求めて「とにかくすぐに平和が得られるような実際的な方法を教えてください」と言います。そうしたいのですが、私は困ってしまいます。というのも、探している平和はその人の中にあるのですから。

それは、例えばいつもは眼鏡をかけている人が「私の眼鏡知らないですか」と聞くので、私が「かけてるじゃないですか」と言うと「でも、あちこち探したけどどこにも見つかりません」、「でも初めからかけていますよ」という具合です。

私たちにとって、すべては謎のように見えます。でも真剣にじっとよく見れば、そこにあるシンプルで単純なものが見えてきます。川はなぜ海へと流れていくのでしょうか。川岸に立って、その流れをじっと見たことがありますか。

川は自分がやって来た海を恋しがり、そこに戻ろうとしているのです。昼も夜も流れ流れて、そしてついに最愛の海に出会います。そのとき川は、もはや流れる必要がなくなるのです。

ある日、私はアフリカに棲むカエルのドキュメンタリー番組を見ていました。干ばつの時には、そのカエルは土の中に深くもぐって、そこで数カ月もの間生き延びるのです。解説の動物学者は、「すごいですね。どうしてそんなことができるのでしょうか」とコメントしていました。でもすごいのは、地中にもぐって生き延びることではないのです。土にもぐるのは、再び雨がやって来るまで生き延びるための急場しのぎに過ぎません。本当にすごいのは、また雨がやって来ることにいのちを賭けているところです。カエルたちは気象の専門家でもないのに、どうして再び雨がやって来るのか分かるのでしょうか。それは、何百万年という進化を経て、必ず恵みの雨が降ることを知っているからです。

家

信頼し信じているたくさんの方が、ある日なくなってしまいます。科学者はいつかこの地球もなくなってしまうとさえ予測しています。「何ということでしょう。この地球がなくなってしまうなんてことがあるのでしょうか。あらゆるものがなくなってしまうなんていうことが」「私の銅像も？私の名前も記録さえも？」そうです。そんなものもなくなってしまいます。

川はなぜ
海へと流れるのでしょうか。
自分がやって来た海を恋しがり
そこに戻ろうとして
いるのです。

あなたはいわばホテルの宿泊客です。仮の宿を自分の家にはできません。

そもそも家とはどういうものでしょう。人は仕事が終わると「さあ、家に帰るか」と言ったりします。自分の家にたどり着くまでは、たくさんの家の前を通りすぎていきます。でも誰も、わが家に着くまでは途中で立ち止まったりはしません。どの家でもいい訳ではないですから。

さて、あなたは家をもう見つけましたか。外側にある家のことではなく、自分の中にある家のことです。そのわが家を見つけたとき、平和がどんなものであるかわかるようになるでしょう。

平和について人々はさまざまに語ります。でも平和は言葉ではうまく捉えることができないようです。「平和を、平和を、平和を」という歌さえあるのに、次から次に戦争が起きているのが現実です。いつになったら戦争は終わるのでしょ

う。私たち人間はほんとうに長い間戦ってきました。それで、いったい何を欲しているかという、繁栄が欲しいのです。では、繁栄の公式とは何でしょう。それは、平和であれば繁栄が訪れるというものです。繁栄があれば平和がやってくるという逆の公式が存在したことは一度もありません。必ず平和が先で、そのあとに繁栄がきます。

自分自身の存在のシンプルな声に耳を傾けてください。平和は定義不可能なものにつながっています。やって来ては去っていく呼吸というシンプルで何か力強いものと密接につながっているのです。

あなたは自分の呼吸の意味を理解していますか。自分自身に内在するものの中で、最もシンプルなものを理解するためには、日々ののちのシンプルさを感じる練習をする必要があります。

自分の中に埋められているその美しいものを見つけてください。そこに平和があります。その宝物が見つかるまで探し求めてください。答えがないなどと決してあきらめず、いつも求め続けていたものが見つかるまで、どこまでも掘り進んでください。

あなたは家をもう見つけましたか。

**外側にある家のことではなく
自分の中にある家のことです。**

毎日 何を練習していますか。

優しい気持ちを持つことですか。
それとも、不平不満を言うことですか。

心の奥にある平和を感じる
練習をしてください。
そうすれば
それが上手になります。





The Prem Rawat Foundation

P.O. Box 24-1498 Los Angeles, CA 90024 USA

www.tprf.org

これはマハラジとしても知られるプレム・ラワットの講演集から編集されたシリーズのひとつです。プレム・ラワットは「平和は一人ひとりの中にある」というシンプルで奥深いメッセージを伝えるために人生を捧げています。

© The Prem Rawat Foundation